



参議院議員 片山さつき氏

「日本全国、どこの料理もおいしい」というのは地方創生の上でも大きなメリット。中でも、味つけが濃い目の「名古屋めし」は海外の人たちにとってつかみやすく、イタリア・ミラノでウケているのもうなずける」と話す片山さつき参議院議員。「地方創生が継続されれば、長い意味で日本の未来も明るくなるのでは」と国民ムードの盛り上げを訴えかける

全国各地を積極的に回るなど地域状況に詳しく、分析力・判断力・行動力・発言力のいずれも秀でる片山さつき参議院議員。「地方創生」こそ、日本国民全体で考えていくべき大きなテーマだという。次々に飛び出す片山議員の生の声を拾った。

「地方創生」というワードを聞かない日はないが、自身が伴っていないからかどうもピンと来ない…。

片山議員 地域活性化を狙って、国はこれまで、公平性を重んじてあらゆることをやってきましたが、うまくいく地とうまくいかない地に二分され、バラまきにもなりました。これらの反省を踏まえて、地域に見合う、地域に暮らす人たちが「これをやろう！」

と決めたことをやるのが地方創生。つまり、「ああせい、こうせい」ではなくて、「そうせい」(創生)なのです。

何といつても、落ち込んだ消費に再び火をつけなければならぬ。その手始めとなるのが地域オリジナルの「プレミアム商品券」プラン。大阪市を除く名古屋市など19の全政令指定都市が採用を決めた。中でも、愛知・名古屋から出ている全国商店街連合会の会長を石破茂・地方創生担当大臣に引き合わせたのは私であり、今回の商品券プランができたことから、愛知・名古屋は「地方創生の出発点」といつていいのでは。

注目してほしいのは、内容も率も期間も全てが自由であること！ まちごとに強く光を当てたいポイントを絞って、真の活性化へとつながる

「地方創生」とは、自分の誇れる次の世代にしっかりと橋渡し

まち・ふるさとを していくこと！

国会 Voice

ていつてほしい。

——全国区比例代表で選ばれる片山議員からみて、東海エリアの可能性はどう映っている？

片山議員 東京一極集中は正策として、東京から(名古屋などの大都市圏を除く)地域に本社を移転した場合、優遇税制を受けられる。名古屋経済圏を除く愛知県、岐阜県・三重県の東海3県は有力エリアであり、東京に並ぶ日本の中心地を選ぶなら、私は東海エリアだと思っている。産業基盤が整備され、労働人口も優秀。リニア中央新幹線や中部国際空港などアクセス面も有利だ。

——「地方創生」で見逃せないポイントとは？

片山議員 「強み」を見い出さなければなりません。愛知を中心に、自動車を起点

——いち国会議員として、何を働きかけていく？

片山議員 日本列島を一つの体と見立てると、体全体に影響を及ぼす動脈硬化を起させず、全体に血が巡るような国土づくりが求められる。

地域間をつなぐインフラが充実しているのはいい。でも、地域ごとに高齢化に耐えうるまちとなっているかというところ、そこまで考えが回っていない。コンパクトなコミュニティ実現に向けて、やり直さねばならないことはたくさんある。無駄な規制もまだ多く、そこをテコ入れして「地方創生」を起こしやすい環境整備を進めていきたい。

——富を生む地元企業、そして読者へメッセージを！

片山議員 企業規模が小さいからといって、デメリットに

名古屋をはじめ、東海エリアの生活水準は高く、伊勢神宮など経済だけでは語れない文化・歴史の重みも東海エリアの財産。東京と比較する必要はないと持論を明かす



とするロボット・航空機など製造力の源であり、岐阜・三重にも広がりを見せている。生活を営む大前提となる職業面の強みを持っているのは大きい。

さらに、そこに教育と福祉を付加すること！名古屋大学と話をしても、10年後に730万人になるといわれる認知症の対策抜きには、(安全保障を含めた)安全な国運営はかなわないとい

はならないのが今です。技術革新はめざましく、(前述した)IOHHに関する健康分野でも、血糖値や血流、心拍数をウェアラブル端末を通してかなり正確につかめるようになり、世界的に見てもベンチャー企業の躍進が目立っている。つまり、人を多く雇ったり、広い工場を用意したりするのがすばらしいという世の中ではなく、知的所有権で生きていく社会になった。大いに挑戦していただきたい。

また、自分の住みたいまち、自分の誇れるふるさとを次の世代に残していくための運動こそ「地方創生」。人工物をつくるのではなく、自然を生かしながらみんなで考えて実行に移せるまちづくりを目指し、消滅都市をゼロにしていきたいと願っている。